

さよなら島根原発 未来のために 集会アピール

3月11日の「あの日」から2年が経とうとしています。

人類史上最悪の原発事故を境に、「日本は大きく変わる」、「いや変わらなければならぬ」と誰もが感じていた筈です。しかし、わずか2年も経たないうちに核燃料サイクルの継続が決まり、原発の新たな「安全神話」ともいべき「新安全基準」なるものが策定されつつあります。国としての「原発ゼロ」方針はいともたやすく反古にされ、「あの日」以前に時計の針が戻されようとしています。

福島第1原発の事故原因はいまだ究明されていません。それどころか敷地内には大量の汚染水がたまり続け、あらたな海洋汚染を引き起こしかねない状況です。そしてそんな中、原発作業員の人たちは、日々被曝の恐怖と闘いながら危険な作業に携わっています。16万人もの福島県民はいまなお厳しい避難生活を強いられています。「除染」の問題も「賠償」の問題も混迷を極めて解決にはほど遠く、被災した人たちが分断されるような状況も起きています。

私たちは東日本大震災と福島原発事故によって、想定しきれない自然災害の脅威と、ひとたび暴走し始めたらコントロール不能な原発事故・放射能の恐ろしさをあらためて思い知らされました。絶対安全な原発などあり得るはずもなく、後世に大きなつけを残す、放射性廃棄物の問題も手つかずのままです。

二度とふたたび福島のような地をつくり出してはなりません。それは、福島を経験した、今を生きる私たちの責任です。時計の針を「あの日」以前に戻そうとする愚かな動きを、私たちは決して許しません。

人類と共存できない原発にはきっぱりとさよならを告げましょう。そして中国電力には、島根原発を二度と動かすことなく、全て廃炉とするよう強く求めます。生とし生けるものすべての安心・安全のために、島根から、原発のない未来を創り出していきましょう。

2013年3月3日

「さよなら島根原発 未来のために」集会参加者一同